

令和4年度周南市こども育成支援対策審議会(第6期第7回)会議録

日 時	令和5年3月13日(月) 15時00分～16時30分
場 所	周南市シビック交流センター2階 交流室1
議 事	<p>議題</p> <p>1. 第2期周南市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し案について</p> <p>2. 特定教育・保育施設の利用定員の変更について</p>
出席者	<p>● 委員 11名 ※会議成立(欠席:井上委員)</p> <p>兼重副会長、竹下委員、木村委員、田中委員、秋重委員、渡山委員、大野委員、原委員、加村委員、小林委員、山本委員</p> <p>● 事務局 15名</p> <p>こども・福祉部こども局 穴田局長</p> <p>次世代政策課:綿野課長、徳田課長補佐、高木係長、坂田主任</p> <p>こども支援課:上野課長、石田課長補佐、有福課長補佐、吉松係長、松村係長</p> <p>あんしん子育て室:柿並室長、宮崎室長補佐、橋所長</p> <p>学校教育課:西村主幹</p> <p>生涯学習課:福岡係長</p>
その他	当審議会会長の井上委員欠席のため、周南市こども育成支援対策審議会規則4条第3項の規定により、副会長が会長の職務を代理することとし、兼重副会長を議長とし、会議を進行した。

議題1 第2期周南市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し案について	
資料1:第2期周南市子ども・子育て支援事業計画中間年の見直し案について (以下「資料1」という。)	
第2期周南市子ども・子育て支援事業計画(以下「計画」という。)	
◎副会長	議題の件について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	こども支援課から資料1により、「第2期周南市子ども・子育て支援事業計画見直し案」について説明。次世代政策課から、計画73頁「推進体制」の見直し予定について説明。
	質疑なし。
◎副会長	事務局案で「変更なし」ということでよいか。
○委員	異議なし。

議題 2 特定教育・保育施設の利用定員の変更について	
資料 2 : 特定教育・保育施設の利用定員の変更について (以下「資料 2」という。)	
◎副会長	議題 2 について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	こども支援課から資料 2 により、特定教育・保育施設の利用定員の変更について説明。
○委員	質疑なし
報告. 各課の取組について	
資料 3 : 周南市当初予算の概要 (抜粋) (以下「資料 3」という。)	
○事務局	次世代政策課 資料 3 に基づき、婚活子育て応援事業、母子父子自立支援事業、乳幼児医療費助成事業、こども医療費助成事業、子どもの明るい未来サポート事業について説明。
○委員	婚活子育て応援事業の子育て支援活動補助金について、上限 5 万円ということだが、子育て支援活動の年間の実施回数が要件となるか。
□事務局	次世代政策課 補助金の交付には年間 6 回実施していただくことが要件となる。
○委員	この補助金を利用するには、市に申請すればよいか。
□事務局	次世代政策課 次世代政策課の窓口で申請していただきたい。
□事務局	こども支援課 資料 3 に基づき、保育所再編整備事業、保育対策総合支援事業、多子世帯保育料無償化事業、一時預かり事業の利用料の軽減について説明。
○委員	保育対策総合支援事業について、保育士の業務負担の軽減を図るためのものと思うが、周南市の状況や、具体的に保育士にどのような負担感があると認識されているか教えてほしい。
□事務局	こども支援課 社会情勢等の変化により、保育士に求められているものが、多様化・複雑化してきている中で、保育士が保育に専念できる環境を整えることが大切と考えている。食事の配膳など、資格がなくてもできる業務を保育士以外の方をお願いします、ICT化を図る、などにより、保育士にかかる負担を少しでも軽減できたらと考え、各園と協議しながら

	検討している。
○委員	保育現場の状況が変化していく中で、保育士の負担感も変わっていくものとする。周南市における保育士の現場における課題を調査するなどし、実証的な数値等を把握した上で対策を打つと、より効果的な施策になるのではないかと考える。
○委員	一時預かり事業について、利用料を軽減するとのことで、保護者はとても助かると考えるが、受け入れ先が十分に確保されているかが心配である。一時預かりをこれまでも行ってきたが、全部の利用希望者を受け入れることはできず、お断りしたことも多くあった。そのあたりはどう考えるか。
□事務局	<p>こども支援課</p> <p>金銭面の負担感から、一時預かり事業の利用を躊躇される方がいるということで、利用料の軽減を図ることとした。具体的には第1子、第2子は1,000円減額、第3子以降は無償化する。受け皿の確保については、令和5年度に新しくできる園で一時預かり専用室を設けて実施される予定であり、また公立の園でも受け皿の拡大を図りたいと考えている。利用料を軽減した影響がどのように出てくるかを見極めながら、今後の施策を検討していきたい。</p>
○委員	尚白保育園、第二保育園は受入人数を削減するということだが、尚白保育園はこれまで、一時預かり室があり、受け皿として大きかったため、自分の園で受け入れをお断りする際にも紹介していた。令和5年度も尚白保育園は一時預かりの受け入れが可能か。
□事務局	<p>こども支援課</p> <p>令和5年度も尚白保育園には一時預かり専用室を設けている。引き続き受け入れが可能である。</p>
○委員	資料の保育所の再編整備事業のところに（仮称）徳山北部拠点施設と認定こども園の記載があるが、子育て支援に携わっている中で、「仕事を始めたい」という保護者からの声をいくつか聞いている。認定こども園の整備をする際に、これから子育てをする人の意見など、これから施設を利用する人の声を聴きながら進めていくと良いのではないかと考える。須々万保育園を利用希望されて入園が叶っていない人の声も聞いている。基本実施設計の際にこのような声をしっかり聴いてほしい。

□事務局	<p>こども支援課</p> <p>令和8年度に向け認定こども園の整備を検討している。来年度から基本実施設計等に取りかかるが、具体的にどのような施設になるか、定員なども未定である。今年度は、現在の須々万保育園と須々万幼稚園の利用者の方に、現時点での方向性について説明したが、施設についてももう少し具体的になってきた時点で、これから利用される方等、地域の方にもしっかりと説明し、意見を聴いていきたい。</p>
□事務局	<p>あんしん子育て室</p> <p>資料3に基づき、子育て短期支援事業、子ども家庭総合支援拠点事業、子育て世代包括支援センター事業について説明</p>
○委員	<p>発達支援のための医療的相談機能の強化について、非常にありがたいと思う。今現場でも特別支援等が必要な家庭が増えてきているという実感がある。相談に乗ってもらいたくても相談の順番が回ってこないという声も聞き、問題となっている。実施する施設の数分かれば教えてほしい。</p>
□事務局	<p>あんしん子育て室</p> <p>ここ数年、発達支援について、力を入れて取り組んでいる。令和5年度はまずは1つの医療機関から始めて、事業が順調に進むようになり、他の医療機関でも実施可能だということになれば、横に展開していきたいと考えている。</p>
□事務局	<p>学校教育課</p> <p>資料3に基づき、通学路安全対策事業、小中学校改修事業、GIGAスクール構想推進事業、やまぐち部活動改革推進事業、教員業務支援員配置事業、学校・家庭支援専門家配置事業について説明。</p>
○委員	<p>やまぐち部活動改革推進事業の予算334万5千円の大体の内訳を教えてください。</p>
□事務局	<p>学校教育課</p> <p>報奨金として部活動指導者等の謝金と旅費で251万7千円、県大会等への指導者の旅費で21万2千円、消耗品費（チラシ等推進計画の概要版の作成等）49万9千円、保険料等で11万7千円である。</p>
○委員	<p>部活動指導者は何人を想定しているか。部活動指導者は自分の時間を割いて部活動の指導に当たっていく。ある程度の報酬がないと、やっていただけの方もいないのではないかと考える。具体的に何人ぐらいの想定なのか。</p>

□事務局	<u>学校教育課</u> 具体的に7名を想定している。
○委員	意見ではないが、現場でスクールカウンセラーに聞いた話を紹介したい。「子どもたちの進学について心配なこと」について小学校6年生を対象にとったアンケートの回答の中に、家の中では言えても、表には出せていない声があり、そのような声を拾い、中学校につなげることで、有効に活用できているということであった。現場で、表には出てこないが影に入った時にちょっと出るような子どもの声を拾い上げることは、大きな弱みになる前に解決につながる非常にありがたい取り組みと思う。「小1プロブレム」、「中1ギャップ」などが問題になっているが、そういった声なき声、まだ表に出る前の声に耳を傾けていただく、非常にいい活動だと思っている。これからも続けてほしい。
○委員	スクールソーシャルワーカーの配置、スクールカウンセラーの配置について各1名は学校に常駐しているのか。
□事務局	<u>学校教育課</u> スクールカウンセラーもスクールソーシャルワーカーも県の仕事を兼ねており、常駐してはいないが、事案が発生した際に連絡を取り合って学校や家庭に出向いている。
○委員	不登校やLGBTの問題が各学校でもいろいろ起きていると思う。こういった状況下でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー各1名では、少し対応が難しいのではないかと思う。常駐は難しくてもすぐに行ける状況を確認していただきたいと思う。
□事務局	<u>生涯学習課</u> 児童クラブ整備事業費について説明。 (この中で富田西小学校内のランチルームを改修し、児童クラブとして活用することで、児童クラブの受け入れ態勢を確保していく旨を説明。)
○委員	ランチルームと児童クラブを共用するということか。
□事務局	<u>生涯学習課</u> コロナ禍で学校のランチルームを利用できていないという事情があり、ランチルームを児童クラブ専用として活用していく。
◎副会長	全体を通して、意見、質問はないか。
○委員	2点ある。1点目は、特別な支援が必要、もしくは配慮を要する子どもの受け皿が必要という話が出ている。現場でもそういった子どもを

預かってもらえないかという相談を受ける。先生の数によって受け入れられない場合もある。これからもまだ、特別な支援が必要な子どもが増えてくると感じるが、それに伴う受け皿の確保が難しい状況である。専門の受け入れ先を作ることは難しいと思うが、受け皿を増やしていけるよう、状況を注視していただけたらと思う。

2点目は、子育て中の保護者から、子育てに関する相談を気軽にできる場がほしいという声が上がっているようだ。市の子育てに関する相談窓口について、幼稚園の入園の機会などに情報提供できる機会を設けることはできないかというアイデアが幼稚園協会から出てきている。市と園とで協力してそのような情報提供の場ができるとういので検討してほしい。

◎副会長 質疑を修了する。